

# LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト～ インクルーシブ教育 実践事例

事例の活用について

※本事例の知的財産は投稿者に留保されます、使用される際には出典として  
「LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 組織名」 を記載ください。

## ■基本情報

組織名：大平特別支援学校

所在地：沖縄県浦添市

※都道府県・市区町村

氏名：澤岬 圭祐

投稿月日：2026年2月21日

■インクルーシブ対応を検討するきっかけとなった児童・生徒（※以下「対象の子ども」と略）について

対象の子どもの学齢 小・中・高2・3年  
17・18歳

障害種別：

- 知的障がい、知的障がいを伴う ASD
- 高機能自閉、アスペルガー症候群 読み書き障がい
- 注意欠損多動性障がい（AD/HD） 肢体不自由
- 聴覚障がい 構音障がい 視覚障がい 病弱
- 重度重複障がい その他（ ）

主訴（主な困り）

- 読む 書く 聞く 見る 話す 記憶する 移動する
- その他（ ）

その他補足

本事例は前年度（2024年度）に「魔法のキャラバン in 沖縄」で紹介していただいた内容や Learn の取り組みを参考に、生徒が授業で習った「社会の変化」や「ICTの活用」を社会で体験することで実感を伴った知識になるように生徒会役員向けに研修を行なった内容の報告となっている。



## ■インクルーシブ対応状況について

1 インクルーシブ対応の検討の児童生徒は、どの範囲まで利用が可能ですか？

教科	<input checked="" type="checkbox"/> 全ての教科で使用可能 <input type="checkbox"/> 特定の教科のみ使用可能
場所	<input type="checkbox"/> 通級等のみ <input type="checkbox"/> クラス限定 <input type="checkbox"/> 学年限定 <input checked="" type="checkbox"/> 学校全体
利用シーン	<input type="checkbox"/> 宿題 <input type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期テスト <input checked="" type="checkbox"/> その他（校内での活用が中心）

2 周囲の児童生徒が ICT を使用するにあたり、個別の許可が必要ですか？

はい    いいえ

## ■インクルーシブ対応に向けての工夫について

①前問で、「いいえ」と回答された方にお伺いします。環境整備に向けた実施事項/工夫点について記載ください

### 実施事項/工夫点

本校は特別支援学校で iPad が多数導入されているため、iPad の校内での利活用についてのハードルは比較的低い。しかしながら、「スマートフォンを活用する」「校外での活用」についてはまだまだ不十分なため、2024 年度の魔法のキャラバンでの研修や今回の取り組みを紹介することでその点についての取り組みを進めているところである。

## ■その他

参考になる写真があれば、こちらに添付してください。

※個人の写真が含まれる場合、事前に保護者の許可が得られているものに限りです。

詳細は投稿要綱をご確認ください。

### 生徒会役員研修会概要

日時：令和7年7月23日～25日（9:00～15:00）

対象：高等部生徒会役員

目的：①生徒会役員として他の生徒の模範となる態度や技能を身につける。

②卒業後の社会さんかを目指し、校内外での活動を通して社会の仕組みについて理解を深める。

内容：①生活の中でスマートフォンの効果的な活用法を知ろう（1日目）

②現代の人がやらなくなった技術を探そう（2日目）

③備蓄米と新米を食べ比べてみよう、振り返りとまとめ（3日目）

備考：①今回の研修内容は2024年度の魔法のキャラバンでの機器の活用法の紹介やLearnの内容を参考に校内で取り組んだ。

②魔法のプロジェクト事務局よりスマートフォンを借用

### 研修の様子（一部を紹介）

#### 『スマートフォンのOCR機能を使って、教師が読めない漢字を探せ（1日目午前）』



教師が読めなかったら昼食代が増額（証拠の写真も撮影する）。

→普段本を読まない生徒が本の中から漢字を探す様子が見られた。

#### 『AIは便利なのか？（1日目午後）』



3種類の契約書の違いを最初は「自分自身」で、その後「ChatGPT」を活用して見つけ出す。

→最初は重ねて「透かす」方法で見つけようとする生徒もいたが、AIを活用すると「もっとわかりやすい言葉で」「小学生にも理解できるように」などのプロンプトを入力しながら試す姿も見られた。

※「契約」についての注意については行なっている。

## 『現代の人がやらなくなった技術を探そう（2日目）』



現代社会でほとんどの人がやらなくなった技術を探しに漁港へ。そこで買った魚を料理する。

→YouTube を活用（生徒自身の発案）しながら、全員が上手に魚を捌くことができた。「魚怖くて触れない」「臭い」「気持ち悪い」など言いながらも真剣に調理する姿も見られた。

まとめ（生徒の感想より）

# なぜ魚を捌かなくなったのか？

生徒A

昔と比べ今はスーパーが一般的になり、市販で買える調理済みの魚が多く主流となったので、魚を捌く機会そのものが減っていったと感じました

生徒B

スーパーで切り身が買えるから魚を捌く経験が減ったから手間とニオイが大変だから

生徒C

魚をさばくのが大変だから

生徒D

日本に西洋文化が流れてきて、食肉文化が広まってきたことによって魚を好んで食べる日本人が減ってきたと考えられる。

生徒E

魚をさばくのが手間と時間がかかるからさばかなくなった

生徒F

背を手前に置き、頭から尾に向かって中骨に沿って包丁を滑らせて身を切り離します。  
くさい、大変でした

## ■変化や効果について

### ①対象の子どもにどのような変化がありましたか

参加生徒の感想から授業（座学）では体験できない学びを得ることができた。放課後の活動の際にはスマートフォンのカメラで記録やメモをとる様子などが見られるようになっており、機器の普段使いも少しずつできるようになっている。また、研修実施後は生徒が主体的に活動する姿が見られるようになっている。

### ②対象の子ども以外の児童・生徒や、学校全体にどのような変化がありましたか

今回の取り組みは他の生徒にも伝わっており、それを理由に生徒会役員になりたいと立候補する生徒も出ている。